

関西国際空港の国際ハブ空港化と伊丹空港廃止を求める意見書

関西国際空港は、昭和 45 年大阪万博のころからジェット機の増便等による伊丹空港の騒音公害が大きな問題となり、周辺住民 3,970 人が 5 次をわたって損害賠償請求や、夜 9 時以降の飛行差止めを求める訴訟問題にまで至ったのを受け、伊丹空港の廃止を前提に、その解決策として日本初の本格的な 24 時間空港として開港されたものである。

また、平成 19 年 8 月に第二期工事が完成されたことにより、複数の長距離滑走路を備え、24 時間完全運用可能な国際ハブ空港としての機能を十分に有する本格的な空港となっている。

しかしながら、関西には、関西国際空港、伊丹空港、神戸空港と 3 空港が存続し、それぞれの役割分担が不徹底のまま運用されているのが現状であり、現在の厳しい社会情勢や航空需要の低迷などにより、今後、関西 3 空港の共存共栄は非常に困難である。

よって、本市議会は国に対し、関西国際空港建設に至った経緯を十二分に踏まえ、当初の方針どおり伊丹空港の廃止を遵守し、早急に関西国際空港を国際ハブ空港と位置付け、国内線の充実を図るとともに、財政措置を伴う整備を図ることを強く求める。

以上、地方自治法第 99 条の規定により、意見書を提出する。

平成 22 年 12 月 17 日

貝塚市議会